

## しあわせ家族計画 字幕

### Chapter9: Piano practice

富士夫 : やっぱり、まずいですよ

喜美子 : 何、言<sup>い</sup>ってんのよ<sup>1</sup>  
公共施設じゃないの  
早く

喜美子 : 開いた  
ちょっと、これ開<sup>あ</sup>けて、これ  
ここ、置<sup>お</sup>いて、はい  
譜面は

富士夫 : 譜面

喜美子 : これ、これ  
「ホーム・スイート・ホーム」ね

喜美子 : はい、今<sup>こん</sup>度はあんたの番<sup>ばん</sup>よ<sup>2</sup>  
右<sup>みぎ</sup>手は、さっきなんとか弾<sup>ひ</sup>けてた<sup>3</sup>わよね  
じゃ、左<sup>ひだり</sup>手やって  
ハイ  
はいはい

左<sup>ひだり</sup>手はね、この親<sup>おや</sup>指<sup>ゆび</sup>から1、2、3、4、5  
いい

最初<sup>さいしょ</sup>のレを5の指<sup>ゆび</sup>で

ラを2の指<sup>ゆび</sup>で、そして、レ<sup>4</sup>を1の指<sup>ゆび</sup>

そしてね、この2の指<sup>ゆび</sup>を動<sup>うご</sup>かさないの

次<sup>つぎ</sup>の、ミ、ラ、ド  
いい

2の指<sup>ゆび</sup>、動<sup>うご</sup>かさないのよ

指<sup>ゆび</sup>の形<sup>かたち</sup>で覚<sup>おぼ</sup>えるの

頭<sup>あたま</sup>で覚<sup>おぼ</sup>えようとしてもダメよ、ね

指<sup>ゆび</sup>と体<sup>からだ</sup>に叩<sup>たた</sup>き込<sup>こ</sup>むの

はい、何<sup>なん</sup>回<sup>かい</sup>も繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>して<sup>5</sup>

レ、離<sup>はな</sup>さない

2の指<sup>ゆび</sup>、離<sup>はな</sup>さない

はい、ミ  
ミ、ラ、ド

よう こ  
陽子 : 由太郎が先ね  
よし た ろ う  
由太郎 : お姉ちゃんでしょう  
よう こ  
陽子 : じゃあ、じゃんけんね  
よし た ろ う  
由太郎 : お母さん

き み こ  
喜美子 : あたし、こう見えても<sup>6</sup>音大出てんだよ<sup>7</sup>  
うち<sup>8</sup>のバカ亭主<sup>8</sup>がさ、「専 業 主婦にピアノはいらない」ってんで<sup>9</sup>、売っぱら  
っちゃって<sup>10</sup>、もうずっと弾いてなかったんだけどね

ふ じ お  
富士夫 : あのを、広瀬さん、家のこと<sup>11</sup>でずいぶん悩んでましたよ

き み こ  
喜美子 : 悪い頭で悩んだってしょうがないのに<sup>12</sup>  
ほら、手、止めないで弾いて

ふ じ お  
富士夫 : はい

き み こ  
喜美子 : 仕事も家庭も、ぜんぶ自分の思いどおりじゃないと気がすまないのよ<sup>13</sup>  
それが男らしいって思い込んでんの<sup>14</sup>

まわりは大迷惑<sup>15</sup>だわ

自分勝手に

意固地で

そのくせ勇気なくて

見栄っぱりで

いいところなんか、ひとつもないのに<sup>16</sup>

き み こ  
喜美子 : あんたの家族ね

ふ じ お  
富士夫 : ええ

き み こ  
喜美子 : 家族か

ゆう こ  
優子 : お帰りなさい

ふ じ お  
富士夫 : ただいま

ゆう こ  
優子 : 今日、品川さんが見えてね<sup>17</sup>

200万円、少しずつ返しますからって

ふ じ お  
富士夫 : あのを

いろいろ はなし き 色々、話を聞いているうちに、貸した方がいいかなと思ったんだ

あんまり<sup>18</sup>、うまく理由<sup>り ゆう</sup>は言えないんだけど

ゆう こ 優子 : 人の事<sup>ひと こと</sup><sup>19</sup>を思<sup>おも</sup>いやっている余裕<sup>よ ゆう</sup>なんかあるの<sup>20</sup>

自分<sup>じ ぶん</sup>だって、あたし達<sup>たち</sup>家族<sup>か ぞく</sup>だって、これからどうなるのか<sup>わ</sup>分<sup>わ</sup>かったもんじゃな  
いのに<sup>21</sup>

ふ じ お 富士夫 : ごめん

ゆう こ 優子 : あたし、話し<sup>はな</sup>疲<sup>つか</sup>れてやせちゃった

ふ じ お 富士夫 : 苦<sup>くろう</sup>労<sup>ろう</sup>してるからね

ゆう こ 優子 : うん